

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：出来野ルーテル保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：久保田 英津子	定員（利用人数）：90（85）名	
所在地：〒210-0825 川崎市川崎区出来野6-7		
TEL：044-201-1146	ホームページ： <a href="https://ikusosu.jp/">https://ikusosu.jp/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 イクスソ会		
職員数	常勤職員：13名 非常勤職員：18名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：16名	栄養士：1名
	調理師：1名	幼稚園：1名
	子育て支援員：4名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：給食室
	居室：1歳児室	設備：地域子育て支援センター
	居室：2歳児室	設備：テラス
	居室：3歳児室	
	居室：4歳児室	
	居室：5歳児室	
居室：一時保育室		

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

◎人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい  
児童福祉法とキリスト教に基づき、保育に欠ける全ての子どもにとって、最もふさわしい生活の場を保証し、愛護すると共に、最善の利益を図り、保護者と共にその福祉を積極的に増進する。

## &lt;基本方針&gt;

1. 子どもが健康安全で情緒の安定した生活ができる環境を育成する。
2. 子どもが自ら行いたい活動ができる環境を整備し健全な心身の発達を図る。
3. 養育と教育が一体となって豊かな子どもの人間性を育む。
4. 地域における子育て支援の為に保育に関する相談に応じ助言する社会的役割を果たす。

## &lt;保育目標&gt;

1. 他人に迷惑をかけずに、いたわりの心を持つ園児に

2. 互いに協力できる園児に
3. 個性を大事に健やかに成長する園児に
4. 明るく素直で礼儀正しい園児に

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

＜出来野ルーテル保育園の特徴的な取組＞

- キリスト教保育とモンテッソーリ教育を保育の柱にしています。
  - キリスト教保育の中で育ててきた神様の存在は、決して一人ではなく、見守っていて下さる方が居るといふ心の強さと、自分の中に振り返る力の種を育てています。子どもたちは、毎月の「聖句」の話をととても楽しみにしています。
  - モンテッソーリ教育では、子どもの「敏感期」を見逃さず、子どもが教具に集中している時に、傍らで見守り、必要に応じた援助を行い、自主性を育てています。行動への道筋を持つ力と、無理なく好きなことに取組める力を育て、友だちへの思いやりや優しい心を育てています。
1. 健康チェックを受入れ時にチェックしている。
  2. モンテッソーリ会議、教具の検討や個別支援の検討を行っている。
  3. キリスト教保育会議を通して、理念に基づく保育研修を行っている。
  4. より良い保育を議題の会議を持ち、法人全体研修を行っている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年09月25日（契約日） ～ 2025年04月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

#### ⑥総評

【出来野ルーテル保育園の概要】

●出来野ルーテル保育園（以下、当園という。）は、平成25年に川崎市から民間移管として社会福祉法人イクソス会（以下、法人という。）が運営・管理を行っています。法人は、横浜市に4園、川崎市に2園の認可保育所と学童保育施設（ルーテル学童保育会）を運営しています。法人全体で、キリスト教の教えを中心にして、神が私たちが愛してくださっているように、私たちも隣人を愛していくことを日々行うことに努め、保育に当たっています。

●当園は、京浜急行線「東門前駅」、または「大師橋駅」から徒歩7分の住宅地の中にあります。道路向かいには川崎市立大師中学校があり、災害時の避難場所になっています。園舎は、鉄筋コンクリート2階建てで、各年齢の保育室の他、一時保育室、地域子育て支援センター「できの」があり、保育園の専門性を生かした地域の子育て支援をサポートしています。また、広い園庭を有し、子どもたちが伸び伸び遊べる環境です。

●当園の定員は90名、0歳～5歳児までの保育を実施し、現在85名の園児が在園しています。保育室内は明るくゆったりとした造りで、1階に3歳～5歳児クラス、地域子育て支援センター、2階に0歳児～2歳児クラス、一時保育室があります。全職員は保育理念の下、子どもの自主性を育てるモンテッソーリ教育を導入し、一人ひとりの園児と向き合い、子どもの自主性・個性を尊重した保育を実践し、子ども・職員共に笑顔が溢れる保育園です。

◇特長や今後期待される点

### 1. 【キリスト教保育とモンテッソーリ教育】

当園は、キリスト教保育とモンテッソーリ教育を保育の柱に、子どもの自主性を育てる保育を展開しています。全職員はキリスト教精神に基づき、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、子どもを尊重した保育を心がけ、マニュアル「キリスト教保育課程」、「モンテッソーリカリキュラム」に則り、保育実践に生かしています。キリスト教保育では、1歳児からミニ礼拝の「サークル」が始まり、3歳児から朝夕の「礼拝」が行われ、祈りが捧げられます。蝋燭を灯しての朝の礼拝は、とても厳かで「聖句」を唱え、賛美歌を歌う子どもたちの顔は自信に溢れ、生き生きとしています。モンテッソーリ教育では年齢に応じて「日常生活訓練」、「感覚教具」が導入され、4歳児から知的成長に伴い幅広い教具（言語、数、生物、地理、音楽等）に触れ、目的を持って取り組んでいます。当園では、その他に外部講師による「絵画指導」や英語に親しむ「国際の時間」を設けています。何れも子どもの成長・発達を見据えて、興味・関心を広げ、子どもが自ら「やってみたい！」と自発的に取り組めるよう環境を整え、自主性を育むことにつながっています。今回の利用者（保護者）アンケートでも「子どもに寄り添った保育」、「子どもの性格や発達にに応じている」、「教育方針がしっかりしている」、「楽しく毎日を過ごしている」等々の意見が多く寄せられ、保育への満足の高さが窺えます。

### 2. 【職員研修からの学びと保育実践】

当園の保育実践を進めるために職員は各種の研修を受講し、自己研鑽に努めています。中でも園内研修として3グループに分かれ、題目「よりよい保育のために」について検討・討議を重ね、結果をまとめて園内及び法人研修会で発表しています。保育実践のポイントとして、目に映る子どもの姿だけではなく、子どもの内面にどのような力が育まれたのか、どのような関わりが今後の成長に必要なか等、職員間で話し合い保育計画に反映させ実践に取り組む体制で、保育の質の向上に向けたPDCAサイクルができています。また、キリスト教保育の研修では、系列園の園長（牧師）より、毎月の「聖句」についての話を聴き、聖書の内容の理解と共に、子どもへの伝え方等を研修しています。モンテッソーリ教育では、視点「こどもの見方」を職員間で共有し、子どもが満足するまで教具に触れ「教具への集中化」ができるよう傍で見守り、援助する体制を敷いています。利用者（保護者）アンケートでも「園長先生が穏やか」、「先生の雰囲気、優しさ」、「子どもも先生が大好き」等、高い評価を受け、明るく和やかな職員集団であり、チームワーク良く保育が展開されています。

### 3. 【食育の推進】

栄養士が作成した「年間食育計画」に基づき、食育を各年齢の年間指導計画・月間指導計画に位置付け、食事がより楽しめるように取り組んでいます。栄養士を中心に食育指導を行い、各年齢の年間目標・ねらいに沿った食育活動を進めています。毎月の食育では、各クラスに栄養士が巡回し、食材の話・マナー・三色栄養・朝食の大切さ等を図解等も使い、分かりやすく話しています。給食の食材は、地元の業者から仕入れ、生鮮食品は朝搬入のものを調理しています。子どもたちに旬の食材に触れさせ、色、形、硬さ、匂い等を感じさせると共に、菜園活動（野菜の種まき、水やり、収穫）を通して、食を身近に感じられるよう工夫しています。当園の給食室は、ガラス窓越しに調理の様子が良く見え、日頃から栄養士や調理員とのコミュニケーションが図られています。毎月の献立には子どもたちの声を反映させ3月は年長児のリクエスト献立が人気です。季節に応じた手作りおやつもユニークで、さつまいもを収穫した際には、スイートポテトに子どもたちが思い思いにポッキーを刺し、レーズンで目をつけ、「ハリネズミ」を作って美味しく食べていました。「楽しく美味しく食べる」をモットーに食育活動を展開しています。

#### 4. 【地域支援の推進・人材育成】

当園では地域子育て支援センター「できの」を併設し、保育園の専門性を生かした地域の子育て支援をサポートしています。調査日にも多くの親子が来所し、経験豊かな専任保育士が育児相談に応じ、和やかな雰囲気を醸していました。来所者数は毎月350人（述べ人数）を超える人気です。実家が遠い母親にとっては、心の拠り所となっているようです。核家族化の中で、孤立した子育てにならないよう、情報交換や交流の場となり、「元気をもらえる場所」としてイメージしてもらえるよう努めています。保育園児たちとも曜日を決めて一緒に遊ぶ等、交流が図られています。多様化する子育てニーズにも応えて行けるような体制作りも必要と思われれます。当園では経験豊かな職員が多い反面、保育を継承する人材確保・育成が課題と捉えています。当園の保育内容をアピールし、賛同して入職する職員を増やすと共に、法人の育成計画への取組及び、さらなる働きやすい環境作りに期待いたします。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 出来野ルーテル保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

第三者の評価を受けたことで、いつもの保育の流れを改めて見直したり、評価をいただくことで良い事はさらに伸ばし、職員間や保護者の皆様に伝わりづらい事などをどのように工夫するかを考察できました。

《評価後取組んだこととして》

1.保護者よりいただいた結果を職員と共有し、より良い保育に結び付けられるよう見直し、良い点についてのコメントは、これからの保育の励みとした。

また、職員個人面談の参考にして、職員の良い所を伝えながら、見直しについても話すようにした。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり